

定置網の網成り調査Ⅱ

漁 業 科 三 青 徹

1. 目 的

水中テレビによる映像を通して、定置網の敷設状態を観察することにより、定置網漁具の設計・改良を行ううえでの参考資料を得る。

2. 調査方法

(1) 調査場所

室戸市室戸岬町 室戸岬大敷

(2) 調査年月日

平成6年4月25日

(3) 使用水中テレビ

(株)キュー・アイ製 DELTA-200 (自航式)

耐 水 圧 30kgf/cm² (水深300m可能)

重 量 約50kg

レ ン ズ $f=4.8\text{mm}$ F1.2

最低被写体照度 4.5Lux F1.2

ラ ン プ 110V-100W 2灯 (高効率
リフレクター採用)

速 度 前進 約3 Knot (静水時)

方 向 表 示 グラフィック円形16分割回
転表示

深 度 表 示 デジタル表示 000~250m

3. 調査結果

調査当日の4月25日の天候はくもりで、潮流がゆるい下り潮で、波もなく透明度も良かった。

室戸岬大敷は、下台の側に底建網を敷設し、上台の側に落網を敷設した構造となっている。

調査は、底建網の敷設場所の海面上と運動場の要所に調査船を固定し、キュー・アイ社製の自航式水中テレビを使って行った。

底建網は、最初に魚取り部を確認し、その後、上面を観察しながら、口の付近まで調べた。上面では、ロープの張りや網のたるみを観察した結果、一部のロープに緩みや網のふくらみ不足がみられ

たが、大きな異常はみられなかった。次に、底建網の側面を、魚取り部から口の付近まで観察した。側面からは、海底と網の敷設状態を主に観察した結果、敷設状態は概ね良好であったが、口の手前で、やや海底から離れているのを確認した。

次に、運動場内に調査船を固定し、突当、底建網の口、落網ののぼり敷の確認を行った。突当は、すその着底状態を観察した結果、海底とのすきまはみられなかった。底建網の口は、開き具合と敷の着底状態を観察した結果、口の開き具合は概ね良好で、敷と海底のすきまもみられなかった。落網ののぼり敷も、敷の着底状態を観察した結果、敷と海底のすきまも見られなかった。

4. 考 察

今回、自航式水中テレビを用い、室戸岬大敷の網成りについて調査した。室戸岬大敷は、底建網を敷設しており、海面上から網成りの確認をしにくい。底建網は、張りを保たせるためにロープ類も多く、水中テレビでの調査を行いにくい条件にあるが、今回の調査ではトラブルもなく、底建網の網成りについても、自航式水中テレビでの調査は有効と思われた。